

令和5年度 学校評価アンケート分析

令和5年10月実施

<結果と分析>

	番号	成果・課題等	改善策・向上策・目標等
教務部	1	生徒・保護者の回答で、「良くあてはまる」は低下しているが、「大体当てはまる」との合計では、昨年度を上回っており、先生方のICT活用等の効果が広まっているものとうかがえる。その一方で、教職員では「よくあてはまる」は増加しているが、「大体当てはまる」が低下しており、授業改善を積極的に行っている層とそうではない層が分かれているか、既に改善を行っているため評価が低くなっているものとうかがえる。	さらなる情報機器の活用について、ICT機器を活用した授業を見学する、ツールの使用方法や活用事例について学ぶ機会を設け、生徒にとって分かりやすい授業を目指して改善を図る。また、Wi-Fi環境等が充実されるように、働きかける。
生徒指導部	2	生徒の評価では、「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」が昨年度の88.9%から95.4%に向上している。これ生徒会、委員会による朝の「マナーアップ運動」が活発に行われたり、年次を中心に生活指導かきめ細やかに行われていることが起因していると考えられる。	今後も「マナーアップ運動」を継続していきたい。また、新たに横断幕や掲示物などを作成し、あいさつやマナーの指導をしていきたい。また、他分掌とも連携し、基本的な生活習慣が身につくような講義、講話等を実施していきたい。
進路指導部	3	進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われているか、に対し、生徒と保護者に関しては「よく当てはまる」、「だいたい当てはまる」という意見が昨年より増加し90%を超えている。しかし一方で、教員は「よく当てはまる」、「だいたい当てはまる」が昨年96.8%だったのに対し、今年度は88.3%と、10%近く低下している。	教員から見ると、生徒が進路目標を明確化ができていないと感じていることが読み取れる。進路行事の精選を行いながら、生徒の進路目標決定に向けてより有意義な内容で行事を実施したいと考えている。また、進路指導部・年次・生徒・保護者間の連携を密にしながら、共通理解のもとに進路指導を行っていきたい。
保健厚生部	4	およそ93%の生徒及び保護者が肯定的な評価。ただし「よく当てはまる」は生徒より保護者が少なく、ともに昨年度より減少している点に気になる。「あまり当てはまらない」の回答は生徒・保護者とも減少したが、教員のみ昨年度の3%から8%まで増加した。原因としてカウンセリング予約がとれないこと、自身が多忙のため十分話を聞けていないと感じる教員が多いことが考えられる。	生徒・保護者に対するPRを強化する。具体策として、例年実施のPTA総会資料配付とSC・SSWの紹介に加え、三者面談で資料配布し、学校サイトにも年間計画を掲示して保護者に周知したい。日程の変更も即時に反映させていく。また、学校全体で教育相談に取り組めるようカウンセリング研修会を実施し、便り等を通じてカウンセリングマインドの資質向上を図っていく。SC緊急派遣要請を迅速に行いSC以外の教員による相談体制作りが課題。生徒の話を十分聞けるよう教員の業務の軽減が必要。
生徒指導部	5	生徒の評価では「よく当てはまる」「だいたい」が昨年度より生徒で3.8%、保護者で11.2%上昇している。合同チームを組んだり、生徒同士で声を掛け合って部活動に取り組んだりしている成果であると考えられる。	今後生徒数の減少により部活動の在り方を考えていかないといけない時期ではあるが、部活動を通して生徒にとって、自己有用感を高めるなどし有意義な高校生活になるよう工夫していきたい。
	6	生徒の評価では「よく当てはまる」「だいたい」が昨年度より生徒で1.7%、保護者で5.8%上昇している。体育祭や文化祭などの各種行事がコロナ禍以前のように実施でき、専門委員会も活発に活動したことで、生徒自身が積極的に取り組んだと実感できたことが原因であると考えられる。	前期・後期生徒総会も充実した議論が交わされている。生徒会を中心に生徒にとって充実した学校生活が過ごすことができ、成長できる学校になるよう努めていきたい。また、今年度同様に研修会や発表会、様々なキャンペーン等にも積極的に参加していきたい。
	7	生徒の評価では「よく当てはまる」「だいたい」が昨年度より生徒で2.6%減少、保護者で4.7%上昇している。学校行事においては、できる範囲で最大限行ったことで保護者がそれらの行事を通して、生徒の成長に繋げることができ、有意義な行事であったと認識できたことが原因であると考えられる。	それぞれの行事において生徒に身につけさせたい力を明確にし必要に応じて精査を行い、各々の行事において生徒が充実感や充足感を味わえ有意義な行事だったと感じられるような行事となるよう努めたい。
教務部	8	生徒・教職員の肯定的評価の合計が低下している。その一方で保護者の肯定的評価は上昇している。従前からの地域連携の取り組みが浸透してきているものの表れとうかがえる。また、雁歌学報やホームページでの情報発信の効果もあるものと思われる。	先生方の負担と、生徒の自己有用感の向上のバランスを図りながら、継続するものと、新規に行うもの、廃止するものを各系列、年次等で検討しながら、より効果的な地域連携の取り組みを実践していく。
総務部	9	災害・非常時の避難方法や連絡方法は、昨年と比べて生徒の認識が上っている。保護者については認識が少し減っている。	入学時に記載している「緊急連絡カード」で、保護者が届け出ている内容について、学校へ提出後に忘れてしまっていることが考えられる。提出後に繰り返し家庭に確認することや、家庭でも緊急時の対応について話し合いが持てるような取り組みを考える必要があると考える。
	10	学校の様子は、雁歌学報やホームページ、eメッセージなどで伝えている。昨年と同様の認識であり、多くの家庭に情報が伝えられていると考えられる。	現状行っている情報発信を、時機を逸せずスムーズに進めていく。各部署と連絡調整を図り、計画的に進められるとよい。

	番号	成果・課題等	改善策・向上策・目標等
事務部	11	すべての対象者において、肯定的評価が前年度より増加した。古い施設設備は多いが、破損・故障等の場合に、速やかに修繕等の対応をしていることが要因と考える。	今年度はテニスコートを移設・整備し、生徒の利便性・安全性を高めることができた。今後も施設設備の現状把握に努め、引き続き関係各課と連携し、教育環境を整備していきたい。
生徒指導部	12	生徒の評価では「よく当てはまる」「だいたい」が昨年度より生徒で1.2%、保護者で3.8%上昇している。これは教科担当や担任が生徒への目配りがなされており、違和感を感じたら、生徒への声掛けや面談、家庭への連絡を行っていることがいじめの早期発見、早期認知に繋がっている。	年1回の校内での教員研修、年4回のアンケートの実施を学校いじめ防止基本方針に基づき実施し、全ての教員が共通理解を図りながらいじめの早期発見繋げていきたい。また、保護者向けのアンケートを実施するなど保護者への周知も行って行きたい。
	13	生徒の評価では「よく当てはまる」「だいたい」が昨年度より生徒で3.8%上昇し、保護者で4.8%減少している。これは委員会や生徒会を中心に生徒会行事や学校行事が充実したものになっている。また、各系列、各教科で生徒が活躍できる場面を設定していることがこのような結果になったと考える。また、昨今の社会情勢を鑑みると将来への不安感を抱く保護者も多い傾向にあると考えられる。	今後も系列や各教科、学校行事で活躍する場面を多く設定していき、マナーや基本的な生活習慣に関する指導も充実させながら、将来に対する目標をしっかりと持たせ生徒、保護者と共有することで、充実した学校生活になるようにサポートしていきたい。
教務部	14	概ね昨年度と同様の結果となっている。各クラス、系列での指導が行きわたっているものとうかがえる。	教室掲示等の工夫も考えながら、本校の教育目標や系列の目標について浸透を図り、それを基盤として各科目の学習活動につなげていきたい。
	15	「良くあてはまる」が低下している箇所もあるが、おおむね肯定的な意見が多い。シラバス等を活用したり授業で評価等について話したりしていることが理解につながっているものとうかがえる。	より見やすいシラバスの様式の検討や授業での説明等を通して、学習方法や評価方法の理解の向上につなげたい。
	16	生徒・保護者にあっては肯定的な意見が多く、本校の科目選択の在り方が浸透しているものとうかがえる。その一方で教職員では否定的な意見が多い。	選択科目の組み合わせ等を今後、検討することで消極的な理由で選択をするものが減少するように取り組む必要がある。
生徒指導部	17	生徒の評価では「よく当てはまる」「だいたい」が昨年度より生徒で5.2%、保護者で2.4%上昇している。これは年度初めに担任が生徒に生徒必携の読み合わせで周知し、保護者には、1年次は入学式、2・3年次はPTA総会で生徒必携を配布し校則の周知を図っていることに起因していると考えられる。	今後も年度初めに生徒には、生徒必携の読み合わせで校則を周知するとともに、保護者には生徒必携を配布し周知を図りたい。また、生徒や保護者、教員から挙がった校則の改善要望は社会情勢に合わせ積極的に改善していきたい。
進路指導部	18	進路に関わる情報提供を十分に受けているか、という質問に対しての肯定的意見を見ると、生徒が2%、保護者は14%増加している。一方で、教員は昨年度より「当てはまる」が2.3%減、「だいたい当てはまる」が18.1%減、その分、「あまり当てはまらない」が14.6%増、「当てはまらない」が5.9%増となった。	今年度は進路室にあった本棚や古い資料等を一扫し、生徒が入りやすく、資料を探したり、進路相談しやすい進路室になるよう工夫した。昨年度に比べ教員に対する情報提供が不十分であるとの結果なので、今後は教員に対して進学・就職に関する様々な情報提供ができるよう心がけていきたい。
	19	進路指導を受けて自分の将来について真剣に考え行動できるようになったかという質問に対して、生徒は肯定的な意見が2.5%増、保護者微減であった。一方で、否定的意見が8.7%増加している。特に、昨年なかった「当てはまらない」が2.9%あった。	今後も、進路ガイダンスや各種講話等で、生徒が自分の進路について真剣に考え、行動するきっかけを提供したいと考えている。外部の講師を招いたり、進路関係の体験的学習を通して進路について考え、行動できるよう指導したい。そして進路行事や進路LHR等の目的を明確化させながらその内容を考えていきたい。
保健厚生部	20	生徒、保護者共に「よく当てはまる」の回答は減ったが低評価についてはそれぞれ半分以下に減少している。教員の評価はおおむね肯定的であった。	デートDV、薬物乱用防止教室、AED講習会を実施し、研修や感染症予防等の情報を速やかに発信していく。ほげんたよりについてはHP掲載を引き続き行う。
総務部	21	今年度から生徒たちの多くが通る場所に「ミニ図書館」を設置した。そこに立ち止まる生徒や教員がいて、実際に借りている生徒もいる。その影響か生徒の半数以上に良好な結果となっている。保護者の方でも昨年より良好な数値が増え、一定の効果を感じられる。実際の図書館への状況としては、図書館だよりを配布し、校内での掲示などを行っているが、教室から遠いことや、昨今の本を読む習慣の減少などにより、図書館へ足が向かないと考えられる。	図書館だよりの教室掲示や、掲示物で図書館の認知度を上げる工夫の継続。今年度から始めたミニ図書館も充実を図り、そこから図書室本体への利用のきっかけが生まれるような方法を考えていきたい。また図書委員の活動で、各クラスへの声かけや広報活動なども利用のきっかけとしていきたい。